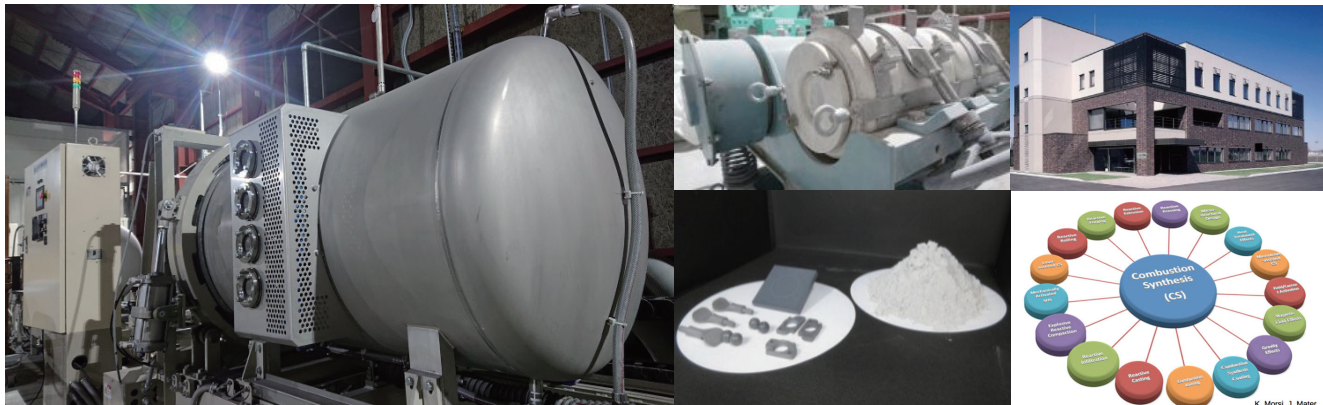


研究開発にこだわり、「新しい技術を創造し社会に貢献する製品」を提案して参ります。



技術動向の把握に。

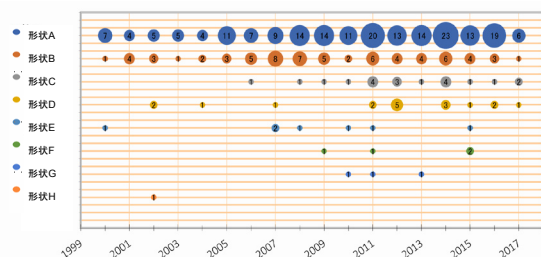
経営課題（なぜ本事業を利用？）

自社の燃焼合成法に係る技術を活用して、新たな市場（放熱材料）への参入を目指していますが、放熱材料の合成技術に関しては十分な知見がなく、業界の技術開発動向や競合他社の技術動向について把握できていない状況でした。

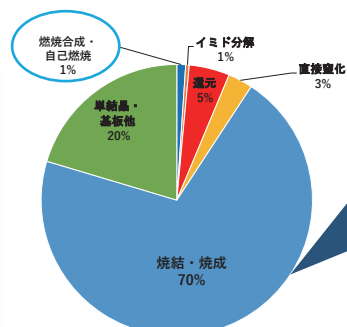
分析のポイント

ターゲットである燃焼合成法による放熱材料に関して、①原材料 ②製造技術 ③用途の3つの切り口から分析を行うことで、当該分野の全体像を俯瞰しつつ、開発を進める上でマークすべき技術情報・権利情報の収集を目指しました。

わかったこと



放熱材料の形状



製造技術別出願シェア

今回の調査では多角的な分析を行いました。その結果、例えば、放熱材料の形状についてのトレンドを掴むことで開発の方向性が見えてきました。また、製造技術に関しても燃焼合成法の割合は低く、先行者としての優位性を築ける可能性を確認できました。

分析結果の活用

開発のベースとなる基礎資料として活用し、特許の取得を目指したいと思います。単に特許を取るのではなく、事業上有効な特許となるよう戦略を練る上でも分析結果や資料が生きてくると考えています。また、特許情報分析の分析結果は、技術動向を客観的に裏付けるデータであり、株主を始めとするステークホルダーへの事業説明資料としても活用できると考えています。

本事業のメリット

我々大学発ベンチャー企業は、情報分析の必要性を認識はしていても、コストや人的リソースを割くことが難しいところがあります。本事業を利用することでこうした懸案をようやく解消することができ、自信をもって前に進んでいくことができます。

PROFILE | 企業情報



代表取締役社長 鏡 好晴 氏

燃焼合成は、「研究を実用化し社会に貢献する」ことを目的とし、北海道大学大学院 工学研究院 秋山研究室との共同研究から誕生した所謂、大学発ベンチャーです。量産に課題があるとされていた燃焼合成法について、共同研究で得られた技術的知識を活かし、世界的にも例の少ない燃焼合成法でのファインセラミックスの量産を行っています。

所在地：北海道札幌市 事業内容：燃焼合成法を用いた各種材料合成
設立：2011年 資本金：9,500万円